# knitr

### 宮﨑

### 2014年1月12日

Campbell and Mankiw (1990); 坂井・瀧本 (2010) を参考にする. はじめに, 乱数を発生させ, 回帰を実施する. 結果を実行すると以下のとおりである.

#### result <-lm(y ~ x)

結果を表1にまとめられる. 回帰係数は 2.1362 である. 結果は図1にまとめられる.

## 参考文献

Campbell, John Y. and N. Gregory Mankiw (1990) "Consumption, Income, and Interest Rates: Reinterpreting the Time Series Evidence," NBER Working Paper 2924, National Bureau of Economic Research, Inc.

坂井吉良・瀧本太郎 (2010) 「消費のランダム・ウォーク仮説と恒常所得仮説の検証について」,『政経研究』, 第 47 巻, 第 1 号, 352-332 頁, 6 月.

表1 回帰結果表

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t )
(Intercept)	10.015	0.186	53.846	0.000
X	2.136	0.313	6.823	0.000

図1 回帰結果図

